

TUMSAT-OACIS Repository - Tokyo

University of Marine Science and Technology

(東京海洋大学)

第一部 海鷹丸航海調査報告 平成11年度 期間
平成11年7月～平成12年3月 海域
日本近海、西太平洋及び東シナ海

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2008-04-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://oacis.repo.nii.ac.jp/records/229

1. 平成 11 年度 (1999 年度) 航海報告 (Report of the Cruise in 1999 Fiscal Year)

1.1 概要 (General Account)

研究練習船海鷹丸の 99 年度 (平成 11 年度) 航海は、新入生を対象とした 1 泊 2 日の体験航海 (Cruising) では、船上における基礎訓練及び大学生活に関するカンセリングを実施した。第 73 次航海となる乗船漁業実習Ⅱの日本周航 1 ヶ月航海では 3 年次学生を対象とし、東シナ海に於いてトロール操業実習・日本海においてイカ釣り実習・機関実習 (基礎)・航海実習 (基礎) を実施した。沖縄では同学練習船神鷹丸との合同バス見学を行なった。海洋観測実習は、隠岐周辺海域において、CTD・ADCP・XBT 等の観測機器により実施し、暖水塊を測定・把握した。また寄港地小樽港において、はじめて東京以外で大学説明会を開催し、船上にて大学紹介等を行った。天候は、途中台風 1 回、熱低・低気圧に 2 回遭遇した。日本海側では濃い霧が発生し、狭視界での航行を強いられた。6 月及び 9 月には、ドックにて整備工事を行うとともに入渠中、水産専攻科学生の見学を実施した。10 月から 12 月の水産専攻科学生の遠洋航海では、南太平洋においてマグロ操業実習・全行程において航海実習・機関実習・観測実習の各実習を行なった。なお実習ノートとは別に、来年から新たに実施される訓練記録簿の準備段階として試験的实施を試みた。曇がおおく天測実習回数は、通常年の 2 割減となった。また寄港地のカ (フィジー) では、政府へのクーデターが起こる半年以上前であったが、治安が悪く、数名の乗組員が襲われた。なお学生への危害はなかった。2 月から 3 月にかけて東シナ海へトロール実習を実施した。寄港した韓国 (釜山港) では、最低気温氷点下の中、釜慶大学及び同学練習船との見学及び交流会を行うとともに、韓国沖にて座礁沈没した本学練習船快鷹丸の沈没慰霊碑に赴き慰霊を行った。また、韓国東岸迎日湾において韓国最初の DGPS 中波局を見学した。今年度航海は、海鷹丸が新船となることから艤装の関係上、遠洋航海を 2 つの航海に分け実施した。3 月 1 日には、同学練習船“神鷹丸”とともに三井造船所玉野工場 (岡山県) に寄港し、学生とともに新海鷹丸の進水式に参列した。

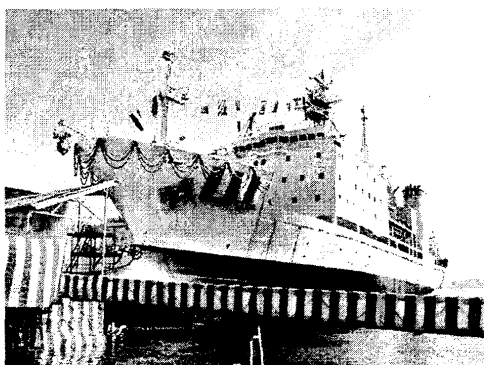
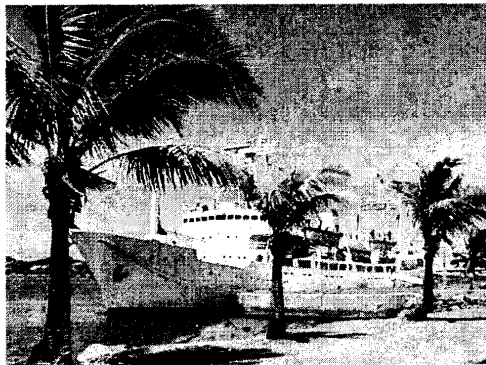


Photo. New UMITAKA-MARU.



UMITAKA-MARU.

練習船“快鷹丸”慰霊碑について

明治33年石川島にてスクーナ型137.66トンとして建造され、明治40年8月鯖調査航海の途中8月28日釜山出港後、同9月9日風が北東に変わり迎日湾にて座礁沈没した。リョウバン（当時の貴族）の判断により、反日感情の激しい折りにも関わらず、乗組員を救助・介護を命ずるとともに、学生2名教官1名の殉職者に対し、木標を建立する。後に1925年石碑となる。終戦後に倒されていた碑を昭和26年にカンエイジツ氏により復旧された。その後、補修され現在に至っている。

これまで社団法人楽水会が2回、海鷹丸（昭和52年）にて1回慰霊のため訪問している。今回近隣にできる公園内に碑を移転する構想もあり、碑への慰霊及び浦項（ポーハン）市役所の訪問を行った。



Photo. 韓国迎日湾での快鷹丸遭難碑慰問。



新海鷹丸進水

新海鷹丸が、平成 12 年 3 月 1 日岡山県玉野市の三井造船玉野工場において進水式が行われた。26 年目の海鷹丸の代船として建造され、6 月 30 日完成引渡し予定である。

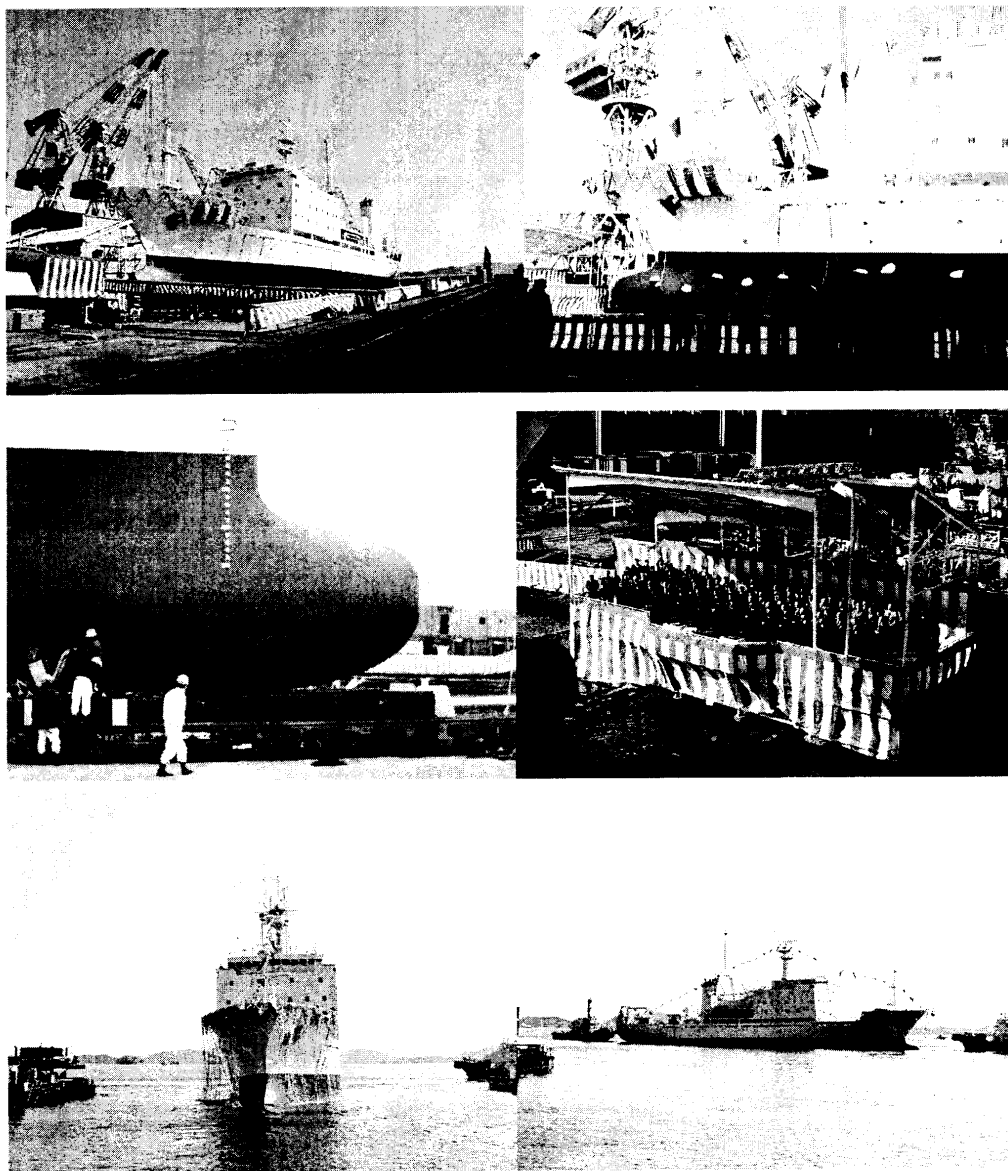
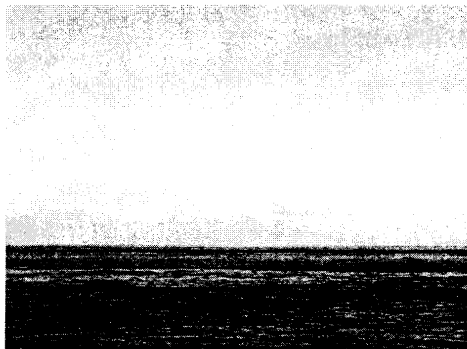


Photo. 新海鷹丸進水式 岡山県玉野市三井造船所にて Mar. 1, 2000.

年間航海実施表 (Annual Cruise Itineraries)

航海日程及び航程	乗船乗組員	乗船学生	乗船研究者等	主寄港地備考
Cruising 航海 May 10,1999 ~May 15,1999	29名	150名 1年次学生	15名 教官/事務官	館山湾
Dock 工事航海 (二中) June 1998	29名	0名	0名	浦賀
第74次航海 Nav.No.74 July 11~Aug 10.1999	29名	49名 3年次学生 専科生1名 含む	4名 教官/研究員	那覇、博多、小樽、青森、佐渡、五島
Dock 工事航海 Sep.1999	29名	25名 専攻科学生	0名	浦賀
75次遠洋航海 Nav. No.75 Oct.1999~Dec.1999	30名	25名 専攻科学生	3名	ニューカレドニア・フィジー・ハワイ
76次遠洋航海 Nav. No.76 Feb. 2000~Mar. 2000	29名	25名 専攻科学生	0名	下関、韓国、長崎



年間航海実績 (Annual Cruise Log)

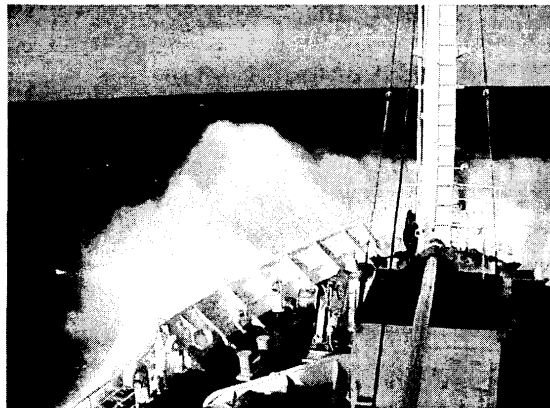
航海名	寄港地	期間	航程数
クルージング航海	東京 館山湾	3回×2日	6日
ドック工事航海	東京 浦賀		21日
第74次航海	東京 那覇 漁場 博多 観測 小樽 青森		30日
ドック工事航海	東京 浦賀		13日
第75次遠洋航海	東京 ヌメア スバ 漁場 ホノルル 東京		70日
第76次航海	東京 漁場 下関 釜山 長崎 東京		23日
その他転錨	4回*1日		4日
計			167日
			406.1 浬
			108.5 浬
			3333.0 浬
			124.3 浬
			12396.0 浬
			2149.0 浬
			1.5 浬
			18533.1 浬

実習期間 (Training Term)

実習航海	実習期間	対象学生
臨海実習クルージング航海	May 10,1999~May 15,1999	1年次学部学生
乗船漁業実習Ⅱ	July 10,1999~Aug 10,1999	3年次学部学生
乗船実習	Aug 23,1999~Mar 23,2000	専攻科学生

調査項目 (Survey Items)

航海名	調査機器	調査海域	実習操業
クルージング航海	CTD 3回、	相模湾	操船訓練
第74次航海	CTD 26回、XBT 12回 ADCP	東シナ海	トロール漁業
第75次遠洋航海	CTD 8回、ADCP、気象情報受画記録	隠岐沖	イカ釣漁業
第76次航海		西部太平洋	延縄漁業
		東シナ海	トロール漁業



1.2 海鷹丸要目表 (Particulars)

Name of Ship:	Umitaka-maru		
Kind:	Training Ship, Motor Ship		
Owner:	The Ministry of Education, Science, Sports and Culture		
User:	Tokyo University of Fisheries 4 Chome, Konan, Minato-ku, Tokyo, JAPAN		
Port of Registry:	TOKYO		
Call Sign:	JGBB		
Ship's Number:	114027		
IMO Number:	7314149		
Name of Master:	Yasusuke Takasu		
Dimension:	Length Overall	79.00 Meters	Breadth 12.40 Meters
	Length (p.p.)	71.00 Meters	Depth 6.00 Meters
Gross Tonnage:	1828.94 Tons		
Net Tonnage:	592.00 Tons		
International Tonnage:	1974.00 Tons		
Main Engine:	Diesel Engine 1,600 p.s. × 2, Single Screw (C.P.P.)		
Cruising Speed:	14.5 Knots		
Complement:	Officers 15 persons	Crew	36 persons
	Cadets 60 persons	Professors	7 persons
	Total 118 persons		
Type of Fishery:	Stern trawl, Tuna longline fishing, Squid jigging fishing, etc.		
Navigation Equipment:	Hybrid navigation system, RADAR, Automatic RADAR plotting aids, Ships condition monitoring system, Auto pilot system, Automatic heading control system, Doppler sonar current indicator, Shaft horse meter, etc.		
Research Equipment:	Fish finder, Sonar, Net recorder, Scientific echo sounder, C.T.D. (conductivity, temperature, depth) measuring system, Submarine video camera, Ship borne wave height meter, Thermosalinograph, Digital bathy thermograph, Expendable bathy thermograph, etc.		
Winches for Fisheries and Marine Observation:	Trawl winch 10tons × 6m/s ×2 3,000m oceanographic winch, one 1,500m oceanographic winch, one 4,000m C.T.D. winch, one		

このページは非表示です。

This page is hidden from view.